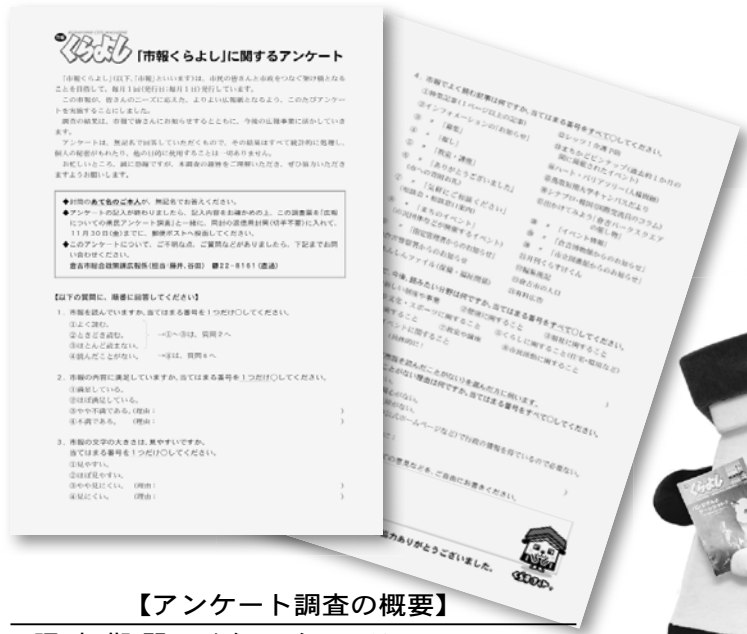


【特集】

# 「市報くらよし」の通信簿

「まち遠し」と言われる市報を作りた

ボクも読んどるけん



## 【アンケート調査の概要】

調査期間	平成24年11月21日～30日
調査方法	郵送方式(アンケート用紙)
質問項目	計6項目と自由記載
発送数	413件 (有効発送数413件)
回答数	223件
回収率	54.0%

問 総合政策課(☎22-8161 / ☎22-8144)

毎月1日に発行している「市報」こと「市報くらよし」。第1号は、倉吉市の誕生と同じ昭和28年10月に発行されています。それから60年近くの間、途切れることなく、今号で発行から1415号を迎えました。

これまで、取材や情報提供、作成・配布業務などで、多くの市民の皆さんのお力添えをいただいています。

市報の役割は、さまざまな行政からの情報を市民の皆さんに的確に伝え、理解と関心を得ることが第一にあります。そこから行政と市民が同じ目標に向かって、共に行動する「協働のまちづくり」を成し遂げることができると考えています。

また、市民の皆さんの生活を、物心ともに、より豊かにする情報を提供し、活用していただく—ということも重要な役目です。

そのように、市民と行政とを

つなぐ「架け橋」となることを「市報くらよし」は目指しています。

しかし、今の市報が、皆さんにとつて、関心の低いものであるなら、改善していかねければなりません。もちろん、皆さんに親しまれる市報づくりは、これまでずっと追い求めてきたものです。1号1号、「読みやすく、分かりやすい紙面づくり」をモットーに試行錯誤を繰り返しています。

しかし、それが行政側だけの自己満足であったなら、お互いにメリットがありません。

そこで、「市報くらよし」が市民の皆さんにどれくらい読まれているのか、そして、どう思われているのかについて、このたびアンケートを実施しました。

このアンケート結果を、市民の皆さんからの「市報くらよし」の「通信簿」として受け止め、今後の広報事業に活かしていきたいと考えています。

## Recollection 「市報くらよし」の歴史



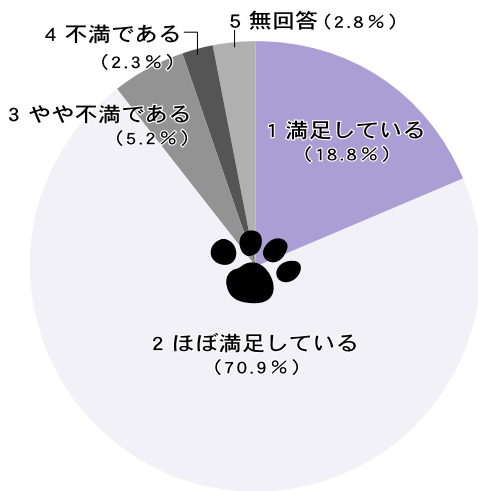
▲第3号 (昭和29年2月1日発行) 総合政策課が保管する最も古い市報。



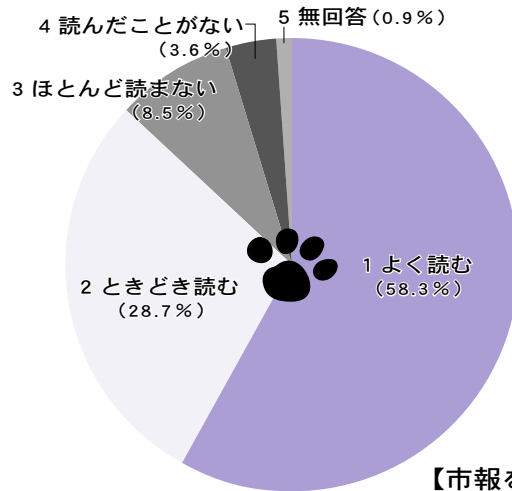
◀第773号 (昭和58年10月1日発行) 市制30周年記念号。この号から2色刷になった。

第821号▶ (昭和60年10月1日発行) 第6次倉吉市総合開発計画の特集号。挿絵は当時の担当者の力作。





【市報の内容に満足していますか？】



【市報を読んでいますか？】



### 9割近くの閲読率

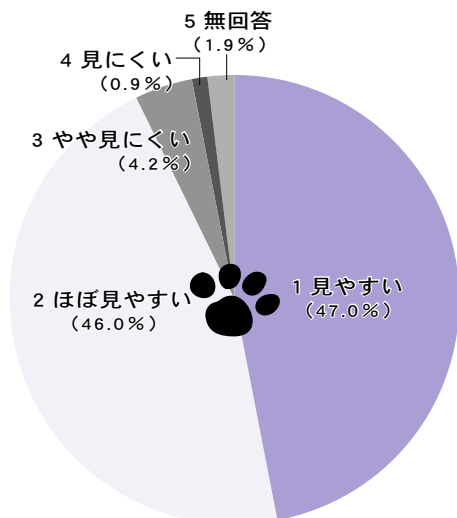
まず、「市報くらよし」を読んでいますかという問いに対して、「よく読む」、「ときどき読む」という回答が87%ありました。一方で「読んだことがない」が3.6%あり、理由として「読まなくても支障がない」、「行政情報に関心がない」などがありました。

また、「よく読む記事は何ですか」の設問では、1位がインフォメーションの「催し」、2位は同じくインフォメーションの「まちのイベント（市民団体などのイベント）」で、3位にも出かけてみようの「パークスクエアの催し物ピックアップ」が入り、市民の皆さんが、市内で開催されるさまざまなイベントに興味を持ち、情報を求めていることが分かります。

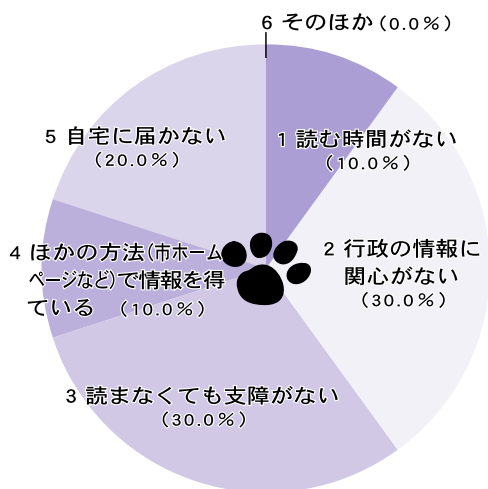
市報は、市役所や各地区公民館などの公共施設にも設置されています。自宅に届かない場合や立ち寄った機会に、そちらからもぜひご覧ください。

### おおむね「満足」の評価

「市報くらよし」に対する評価



【市報の文字は見やすいですか？】



【市報を読まない理由は何ですか】

市報の情報は、内容、重要度、

緊急度などはそれぞれ異なりますが、どれも行政が、市民の皆さんに「ぜひ伝えたい、伝えなければならぬ」と考えて掲載しているものばかりです。しかし、そのように伝えたい情報を掲載しても、手に取って読んでもらわなければ、その意味をなしません。行政情報に、市民が興味を示すコーナーをバランスよく配置することで、より読まれる市報になると考えます。

今回のアンケートでは、現在の「市報くらよし」に対して満足度の高い結果が出ました。ただ、何らかの不満を持つ人も0ではありません。それが少しでも、0に近づくように今後も、「よりよい紙面」を検証しながら作成していきます。

### Opinion①

### 「市報くらよし」のここが不満！～アンケートから～

- ・もう少し分かりやすく広報してほしい。
- ・文字が多過ぎる。
- ・若さが不足している。
- ・子育て世代が知りたい情報が少ない。
- ・必要な情報が見つらい。
- ・面白くない、欲しい情報が少ない。
- ・訳が分からない。
- ・不必要な情報が多い。
- ・関心がない。
- ・特集記事ぐらいしか、読むところがない。
- ・固い内容が多い。
- ・文字が読みにくい。間隔が狭い。
- ・紙面に余裕がなく、圧迫感がある。
- ・特集の写真が大きすぎる。



もっと、精進せんといけんな～。



…でも、くらすけくん、「若さ」はどうしよう？

## 特集の「得集」化を目指して

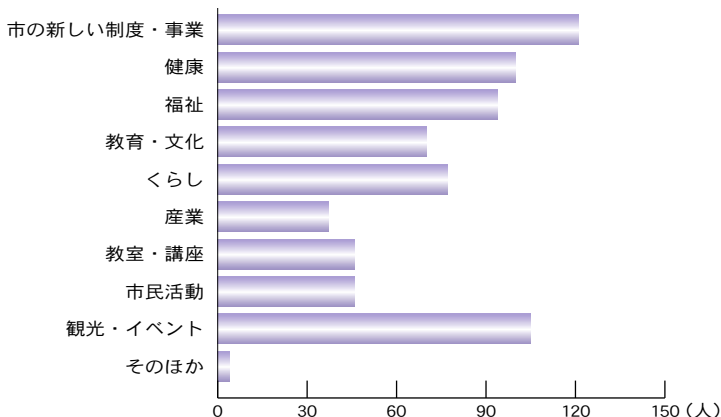
今回のアンケートで、市民の皆さんから一定の評価をいただいた「市報くらよし」。皆さんにとって、必要で役立つ情報を記事として分かりやすく掲載するよう、心掛けていきます。しかし、行政情報の羅列だけでは、面白い紙面にはなりません。

そこで、「市報くらよし」では、今、毎号「特集記事」を企画しています。

今回のアンケートの「よく読む記事」で、特集記事は第5位でした。今後も、タイムリーで、「読んで得したな」と思ってもらえる「得集」となるよう、総力取材で編集・掲載していきます。



▲好評だった平成24年7月号の特集



【市報でどんな記事が読みたいですか？】

## 【市報でよく読む記事は何ですか？(複数回答)】

順位	記事名	回答者
1	インフォメーション「催し」	119人
2	インフォメーション「まちのイベント」	108人
3	あんしんファイル	84人
3	出かけてみよう「パークスクエア」	84人
5	特集記事	82人
6	出かけてみよう「イベント情報」	79人
7	インフォメーション「お知らせ」	75人
8	インフォメーション「寄附お礼」	74人
9	インフォメーション「募集」	69人
10	インフォメーション「教室・講座」	66人
11	出かけてみよう「倉吉博物館」	57人
12	倉吉市の人口	46人
13	倉吉警察署から	43人
14	出かけてみよう「市立図書館」	41人
15	レッツ！介護予防	40人
16	まちかどピンナップ	37人
17	インフォメーション「相談会・窓口」	28人
18	月刊くらすげくん	24人
19	シナプロ・韓国	23人
20	編集後記	22人
20	インフォメーション「指定管理者から」	22人
22	とりたんキャンパスだより	21人
23	ハート・バリアフリー	17人

## 市報マメ知識

Q. 「市報くらよし」1部あたりの印刷費は？

A. 約51円です。

「市報くらよし」の1頁あたりの印刷費は、38,325円(税込・2色印刷)です。毎号1部あたり24～28頁ですので、1部あたりの印刷費45.99円～53.66円(税込)です。これを毎月20,000部発行しています。

## Opinion②

私には、昭和61年4月から4年間、広報担当として、市報作成に関わりました。ちょうど、「わかつり国体」が終わったばかりで、まちづくりの気運が市民全体に満ちあふれている時代でした。当時の牧田實夫市長は、市政のスローガンに「水と緑と文化のまちづくり」を掲げ、「日本一を100つくり」や、「トイレからのまちづくり」など、さまざまな施策を打ち出して、市民活動にさらなる活気を生み出そうとしていました。

その中で、「市報は、まちづくりの方向性を市民に理解してもらう方法の一つであり、人や自然、行事など、倉吉の「良いところ」をお知らせする使命がある」と考えていました。

私は、「素材はまちにある」を信条にして、積極的に取材に出向き、多くの人と出会い、たくさんの方を教えた。また、「いかに分かりやすく市民の皆さんに伝えるか」を大切に、簡潔明瞭な文章になるよう心掛け、より関心を持ちやすい対談形式の記事をよく取り入れていました。

今後の「市報くらよし」は、事業と予算を関連付けて知らせるような記事にしてほしいと思います。公共施設をつくった時、市報を見て「この小学校の体育館建設には、いくらかったか」、「この道路を造るには、税金がどれだけ投入されて、市はいくら補助金を受け、借金をしたか」ということがわかれば、もっと行政運営を身近に考えることができるのではないかと思います。



波田野 頌二郎さん  
(小鴨公民館長・元倉吉市職員)

## まちづくりの情報誌として「広報担当」の話

思い出に残っているのは、雪の降ったある朝、牧田市長に「早くしないと打吹山の雪が溶けるよ」と促されて、慌ててカメラを持って新雪の打吹山に登った時のことです。まだ誰も踏み入っていない登山道の美しさと凍とした静寂の記憶は、今でも私の宝物です。



Opinion③

「市報くらよし」、もっとこうして！～アンケートから～

今回のアンケートでは、回答者の皆さんから多くの意見をいただきました。すぐには取り組めないものや、検討が必要なものもありますが、すべての意見を真摯に受け止め、今後の市報作成の参考として活かしていきます。ありがとうございました。



- ▶市報くらよし8月号6～7頁「倉吉打吹まつり」の記事の字体は読みづらかった。夏まつりのイメージだと思うが、読む人のことを考えれば「読みやすい」ことが基本だと思う。
- ▶色が暗い。もう少し明るい色を使用してはどうか。
- ▶頑張っネ！！
- ▶いつも読んでいるが、とてもいい広報(写真の表情も含めて)と思う。
- ▶担当者の努力が感じられる。
- ▶市報をインターネットで自由に見られるようになればいいと思う。  
(→担当者より：「市報くらよし」は、市ホームページでも公開しています。こちらぜひご覧ください)
- ▶市報をインターネットで見る家庭は、その分特典を付けるなどの取り組みをしてほしい。
- ▶毎月楽しみにしている。
- ▶家に届くのが遅い。
- ▶最近、表紙の写真が子どもの笑顔が多く、大変うれしい。
- ▶読まれる工夫が必要！！情報をいかに簡潔にするか。分かりやすく掲載するか。文章を短くできるところは短く。絵や図を用いて分かりやすく。文章を読まなくてもある程度理解できるように。ふりがなも必要。
- ▶暮らしの情報を1番としてほしい。ある程度、限られた人への情報は削減してほしい。
- ▶英語などはあまり使用せず、使用した時には日本語をつけ加えた方がよい。
- ▶市民の皆さんに読んでもらえる「市報」づくりをしてほしい。
- ▶月に1回では情報が遅れたり、間に合わなかったりすることがあると思うので、かわらばん・号外的なものも出してほしい。
- ▶各町の穴場スポットの紹介をしてほしい。市民の皆さんが知らない場所もまだまだあると思う。倉吉も範囲が広いので、ぜひ企画してほしい。
- ▶倉吉市のさまざまな情報クイズ、パズルなど、頭の体操的なコーナーを作ってはどうか(解答も欄外などに掲載して)。
- ▶名産品や商品券のプレゼント、クーポンなどをつけてほしい。
- ▶市報を読むと、大変良いことが身につく。
- ▶市内のことが手に取るほど良くわかる。今後も読みたい。
- ▶若者の頑張り家さんの紹介など、元気が出るニュースを！！
- ▶自治公民館に加入している家庭にしか配布がない。回覧もないので、公共施設で目に入った時、たまにしか読むことがない。
- ▶アパートには、市報は届かないのか？  
(→担当者より：「市報くらよし」は、自治公民館を通して各家庭に配布しています。アパートでも、ある程度部数がまとまれば、管理人さんなどに配布しています。ご相談ください)
- ▶白黒紫以外、もう1色足して、3色使用してはどうか。注意事項は赤にするとか！
- ▶保育園～高校世代の子どもたちをもっとたくさん取りあげてほしい。これからの倉吉を支える世代を！！

取材を終えて



「市報くらよし」は、市民の皆さんから情報提供や取材協力、貴重な意見をいただき、掲載内容やレイアウトなどを工夫しながら発行しています。

今回の特集で、市報が伝えてきたものを振り返り、私たち広報担当者も、新年にふさわしく、原点に戻って気持ちを新たにしました。

これからも、市ホームページなどでの情報発信と合わせ、市民と行政の「架け橋」となるよう、分かりやすく親しみやすい広報紙づくりに努めます。

今後も、ご愛読をよろしくお願いいたします。

